

# Memento

## 知りたいあなたのための 京都の部落史（超コンパクト版）その3 膨大な史料と研究を前にして途方に暮れないために

灘本昌久

本誌8、9号で『京都の部落史』の前近代の概略を私なりに紹介した。この試みはけっこう好意的に迎えられたと同時に、近代の「コンパクト版」にたいする希望も意外に多かった。そこで、今号では近代の部落史理解の鍵となる、「解放令」および「松方デフレ政策」について論じたい。

### 明治維新と解放令

部落問題にとって、1871年（明治4）8月28日の「解放令」は、賤民身分の制度的廃止という点で、巨大な意義をもつ。個人的体験や実感とは別次元で歴史的に評価すると、解放令の意義の大きさにくらべれば、のちの全国水平社創立（1922年）や同和対策審議会答申（1965年）は、小さな出来事である。しかし、「解放令＝空手形」論さえあるように、近代部落史研究のなかで、「解放令」の評価はずいぶん低い。

解放令に対する批判は、ようするに解放が名目に過ぎず、逆に従来の特権が廃止された分だけ被差別部落には不利益だったという論調である。そして、それと対極をなすものとして、土族への「厚遇」が持ち出される。「封建的抑圧政治の張本人である彼らをこのように手厚くもてなし、封建制の最大の犠牲者であるエタ・非人身分のひとびとには、一片の布告だけですててかえりみなかった」（部落問題研究所編『部落の歴史と解放運動』初版1965年、新版1976年、199頁）というわけだ。

しかし、こうした解放令にたいする批判は、おおいなる偏見であるといわなくてはならない。まず、解放令が

漸進的解消でなく、即時無条件解消であるということが注目される。幕末の解放論にせよ、京都府からの建議にせよ、すべて何がしかの条件付きで、徐々になくしていこうというものであった。職業訓練をほどこしたうえで平民に組み入れようとか、公共事業への功勞者から順に取り立てるとか、いわゆる拔擢解放論である。にもかかわらず、実際に明治政府が出した解消論は「穢多非人等の称廢せられそうろう条、自今身分・職業とも平民同様たるべきこと。」と、そっけないばかりの即時無条件解消であり、これが当時の人にとっていかに過激なものであったかは、現在の我々が想像する以上のものであったらう。

漸進的解消論の案が吹き飛んで、即時全面解消になった理由は、上杉聰の包括的研究『明治維新と賤民廃止令』（解放出版社、1990年）によれば、大蔵省による無税地の廃止や土地売買解禁に向けた財政的事情が強く作用したものとされるが、近代的統一制度をつくるために旧弊を一掃するということは、明治維新の革命性のあらわれであっても、その逆ではない。1863年、南北戦争開始から3年近くたってアメリカ大統領リンカーンにより発せられた「奴隷解放宣言」は、南軍に負けつづけた北軍が、戦争に勝ちたさにしぶしぶ出したという感じであるが（なにせ、宣言の段階では北軍に忠実な奴隷州の奴隷は解放の対象外！）、黒人解放史における南北戦争の意義は変わらない。革命政権は善意で良い政策を実現するというよりは、自分の弱さをカバーするためにより広い支持を集めるべく改革を推し進めるといことが多い。そしてそのことをとおして、歴史的必然性が貫徹していく。

解放令発布直後の1871年（明治4）9月に、京都府は政府にたいしてアメリカ産牛輸入の許可をもとめている。これは、牧牛事業をおこして、旧穢多・非人身分の人々の職業の開拓や生活の支援にもつなげようとして着手したものである。73年に現在の京都大学医学部あたりに牧場までできたのだが、部落の要望とは一致しなかったのか、部落大衆の参加はなかった。しかし、けって政治の側が部落の行く末にまったく無関心であったわけではない。

いっぽう、その手厚いもてなしを受けたとする士族たちはどうか。江戸時代から明治維新にかけて、いちばん割りを食ったのは、公平に見て武士身分であろう。部落問題の通史をみれば、ほとんどの場合、旧武士身分は禄に代わる公債をもらったことが強調されているが、たとえば、戊辰戦争に敗れた旧徳川家臣団の場合、明治の初めの2年間で家禄は5分の1に削減されて、無償に近い廃止処分にあっており、旗本・御家人の家来にいたっては、ほとんどが農商身分に編入されている。また、1871年（明治4）7月の廃藩置県によって所属がなくなり、1873年1月の徴兵令によって職業的存在意義がなくなったすべての武士たちは、秩禄処分<sup>ちつろくしよぶん</sup>によって打ち捨てられるのである（ただし、その後警官・教員・官吏など公務員化して生活を支えるようになったので、「士族＝没落」とのみいえるわけではない）。封建領主制の廃止という点で、日本は徹底している。イギリスあたりでは、封建領主がブルジョア革命をへて地主に化けていったのだが、日本では耕作地は地券をもらった百姓たちの手に無償でわたった。（中村哲『明治維新』、集英社、日本の歴史16、1992年）

特権を廃止された旧武士の不満は強く、神風連の乱（1876年）、秋月の乱、萩の乱などを起こし、1877年ついに倒幕の最大・最強の功労者であった薩摩武士たちが西南戦争を起こしたが、徴兵で集められた国民の軍に鎮圧された。この時期、伊勢暴動など政府の近代化政策（重い地租、小学校建設、徴兵、時として解放令）に反対する農民一揆があいついでいたが、不平士族の反乱と結びつくことはなかった。秩禄処分など封建的特権＝華族・士族の権益廃止に世論は支持をおしまなかったのである。

この西南戦争鎮圧のために従軍した京都府天田郡の部落出身兵士武田勇三は「田原坂において昼夜激戦十八日の間つかまつり、なお、植木において昼夜十五日間戦争つかまつり、何れもことのほか激戦にて粉骨尽忠つかまつりそうらえども、お蔭をもって、数日間の戦争に刀きずは申すにおよばず、玉きずなど一ヶ所も受けもさず、...さりとして、諸人に遅れをとりそうら

う義もこれなく、一途に進軍つかまつりそうらえども、無難にて、賊軍もその後追々退軍」（漢字・仮名使いは替えてある。以下同様 灘本）に追いやった後、戦病死を遂げている。また、何鹿郡の部落出身兵士岸本彦吉は、1874年（明治7）に大阪鎮台の軍に入隊し、10月には近衛兵となり、一等卒として西南戦争に従軍している（『京都の部落史』第2巻33頁、第6巻246頁）。「解放令＝空手形」論によれば、この兵士の死は無意味な死かもしれないが、そうではない。近代革命である明治維新の結果、平民として兵士に取りたてられた部落出身兵士が、反動武士による反革命戦争を鎮圧し、封建時代の亡霊を殲滅したのである。これによって、明治維新への逆流はおさまり、以後、反政府運動は自由民権運動が主役となる。もし、反乱士族側が優位にたつようなことがあれば、全国の不平武士が呼応して立ち上がり、明治維新は大混乱に陥ったことだろう。また、秩禄処分の緩和など封建的特権への大幅な譲歩を余儀なくされたにちがいない。

解放令にたいして、当の部落大衆は、当然のことながらもろ手を上げて歓迎した。1872年（明治5）のこと、桑田・何鹿両郡の部落大衆は、「御国恩」にむくいるため、費用を負担し人夫6,000人をだして亀岡から京都に通じる交通の要衝である老ノ坂峠を切り下げて、人々が行き来しやすく整備し、府知事から表彰されている（第2巻19頁、第6巻130頁）。この他、部落に残されている史料の中には、解放令が布達され村のすみずみに浸透していく経過が書き残されており、その文面に見る部落の人々の目は、喜びに満ちている。

今まで通史的に言われてきていることとはちがひ、明治維新およびその後の展開の中で、権力機構は上に行けば行くほど被差別部落側の肩を持ち、下へ行けば行くほど旧習を守ろうという傾向がある。従来、そこを間違えてきたのは、部落差別が時々<sup>うしこ</sup>の国家権力によって支配の道具として作り出されるという誤解があったからである。差別の根っこは村落共同体レベルにあるということに気がつけば、結論はさかさまになる。

たとえば、氏子加入の問題がある。江戸時代の民衆のイデオロギー統制は、仏教を使った檀家制度を通じて行われた。これにたいして、明治維新政府は、神道を通じて国民のイデオロギー統一をはかろうと、国民すべてが神社の氏子になることを強制した。当然、部落の人々も国民の一員として、氏子になるべき存在である。ところが、京都では部落の側は、浄土真宗の場合がほとんどで、阿弥陀さんは拝んでも、村の鎮守様は拝もうとせず、また一般の村人も自分たちの神社に元穢多であった人をいれようとはしなかった。そうし

ているうちに、国民総氏子計画に遅れをきたしたため、京都府は部落民を氏子として加入させるように厳しく督促した。1872年（明治5）6月28日、京都府の福知山出張所は三郡の区長にたいして、7月11日までに部落の人々を氏神に加入させなければ「嚴重の沙汰におよぶ」と厳命している。権力機構の上のほうの人々にとっては、民百姓の旧態依然たる差別意識・差別慣行はさぞいまいまく映ただらう（第2巻21頁、第6巻537頁）。

さらに明治期の部落差別に、「部落学校」という存在がある。これは、本来同一校区でなければならぬにもかかわらず、被差別部落と同じ学校になるのを嫌がって、部落のみの学校を作らせる、あるいは場合によっては単に本校への登校を拒否するというものである。こうした問題が、全国各地で引き起こされる。京都府は、部落学校問題が比較的少ないが、1900年（明治33）に中郡善王寺村で統合問題がおこった。部落総代が部落の児童を本校に通学させたいと村役場や郡役所に向けあったが相手にされなかったために、知事に直訴したところ、知事は「普通教育奨励の折から捨て置きがたし」として視学を派遣して統合に動き、4月1日から「公然登校の運びに至った」というものである（灘本昌久「明治期京都における被差別部落の義務教育について」『京都部落史研究所紀要』3号、1983年）。村長たちは、地元民の意向に強く規定されるのにたいして、戦前の知事は内務大臣の指揮監督を受けて天下ってくる官僚であったので、近代化政策に必要であれば、在地の古い慣行などは無視して平気なのである。

### 「コミンテルン史観」の病

このように明治維新および解放令が、部落差別解消に大きな力となったにもかかわらず、「解放令＝空手形」論が幅をきかせた背景には、解放令発布後50年をへても水平社運動をおこさざるをえなかったように、根強く部落差別が残ったということがあげられるだろう。

しかし、より大きな原因としては、戦後歴史学の明治維新にたいする偏見が大きく災いしたといわなくてはならない。「戦後歴史学」は単に戦後の歴史学というだけでなく、狭義には講座派系のマルクス主義歴史学をさし、その起源は国際共産主義運動の総本山たるコミンテルンの御神託である「32テーゼ」（1932年に出された日本革命戦略の綱領）にまでさかのぼる。「32テーゼ」以前の日本のマルクス主義者による明治維新理解は、野呂栄太郎が「明治維新は、明らかに政治革命であるとともに、また広範にして徹底せる社会革命であった。それは、けっして一般に理解せられるごと

く、たんなる王政復古ではなくして、資本家と資本家的地主とを支配者たる地位につかしむるための強力的社会変革であった」（『日本資本主義発達史』1930年初版『野呂栄太郎全集』新日本出版社、1965年、58頁）と述べているように、なかなか素直なものだった。ところが、日本の共産主義運動に押し付けられた「32テーゼ」では、「日本に於て1868年以後成立した絶対君主制は、その政策は幾多の変化を見たにも拘らず、無制限絶対の権をその掌中に維持し、勤労階級は（に）対する抑圧及び専制支配のための官僚的機構を間断なく創り上げた」（『現代史資料14 社会主義運動1』みすず書房、1964年、617頁）となって、明治維新の革命性にたいする評価などは、吹き飛んでしまった。32テーゼは、1931年の満州事変勃発で、日本軍国主義による東からの侵略に危機感をもったコミンテルンが、大急ぎで学者をかきあつめて作ったもので、日本の支配制度を絶対主義ツァーリから類推した面が強い。日本の共産主義者ははじめ相当の抵抗感を持っていたのだが、結局は「聖典」となって戦前の無産運動を誤らせた。

そして、この線にそって「講座派」（戦前の共産主義的学者のうち、『日本資本主義発達史講座』に結集した人々で、日本共産党に近い。のちの社会党左派につらなる左翼学者は雑誌『労農』に結集し「労農派」と呼ばれる）の学者による研究がなされて戦後に受け継がれ、集大成されたのが遠山茂樹の『明治維新』（初版1951年 岩波現代文庫、2000年）である（自由主義史観の藤岡信勝はこうした戦後歴史学の歴史観を「コミンテルン史観」と名づけているが、経緯はまったくそのとおりである。『汚辱の近現代史』徳間書店、1996年、74頁）。

遠山によれば、明治元年のさまざまな開明的布告は「天皇制が幕府制と争い、薩長が諸藩の離反を喰い止めながら、天皇制絶対主義をこの世に送り出す陣痛期の麻痺剤であったにすぎず、かの啓蒙専制主義以前のものであった」（文庫、209頁）、「矢つぎ早やに遂行される、いわゆる開明的諸政策の本質は、いかなる意味でも絶対主義のブルジョア政権化を表現するものではなく、専制権力のあらわな圧力の下に強行される、絶対主義の貫徹以外の何物でもなかった。」（文庫、25頁）というような評価となる。

遠山氏は、あまり部落史について発言されていないように思うが、戦後の部落史研究をリードした井上清や部落問題研究所関係の研究者、その他研究者のほとんどがこういう歴史観をベースにしているので、解放令など欺瞞の最たるものであるという評価が定着したのも当然のなりゆきだ（細かくいえば、遠山・井上両

氏の間に議論があったが、ここではおく)。

もっとも明治維新をマイナス評価する歴史家ばかりだったわけではなく、そうした欠点を克服しようという試みは、早くからなされていた。京都大学人文科学研究所での共同研究をまとめた桑原武夫編『ブルジョワ革命の比較研究』(筑摩書房、1964年)は、前書きにもそうした問題意識を明記してあるし、共同研究会のメンバーであった河野健二の『フランス革命と明治維新』(NHKブックス、1966年)および中村哲の『明治維新』(集英社、日本の歴史16、1992年)、梅棹忠夫『日本とは何か 近代日本文明の形成と発展』(NHKブックス、1986年)などは講座派的明治維新観の克服を意図しているものである。

### 松方デフレ政策と部落の貧困化

では、解放令を積極的に評価することができるかとすると、その後の部落の貧困な生活は、何によるのか。それは、まったく「松方デフレ政策」に起因するというほかない。

西南戦争を戦うにあたって、明治政府は大量の不換紙幣を発行した。ようするに、お金がないので、お札を刷ったわけである。当然、急激なインフレが起こる。これは歩きはじめたばかりの日本の資本主義経済発展にとって、非常な問題である。そこで、松方正義大蔵卿(今でいう大蔵大臣)が紙幣整理を中心とする強力なデフレ政策を、1881年(明治14)から数年間にわたって敢行した。その結果、近代的通貨・信用制度が確立したのはいいのだが、ひどい不景気に見舞われて、多くの農民は債務に苦しみ、土地を手放して小作人になった(このあたりは、通史にあるとおりで、高校の教科書にも書いてある)。京都では、西陣の機織業が生産額を6分の1にまで落とすにいたっている。

この松方デフレ政策で、同様に非常な打撃を受けたのが被差別部落の経済である。前回に述べたように、江戸時代の末には、穢多村の経済は皮革関連・履物産業を中心に発展をとげ、一般の村と肩をならべ、あるいは凌駕する勢いであった。この状況は、明治維新を経ても続いていた。しかし、そこへやってきたのが、松方デフレである。製造業及びその販売で成り立っていた部落の経済は、たちどころに大きな打撃を受けた。たとえば、京都駅にほど近い東七条地区に関して、『柳原町史』は次のように述べている。「本村は...皮革商および雪踏・下駄・沓・履物表等をもって生活す。...旧穢多職は安政以来漸次盛んにして、慶応・元治より明治初年頃に至りその極度ともいふべき有様なりしが、同12・3年頃より衰微の兆しを顕わし、16・

7年に及びてそのはなはだしき惨状は見るに忍びざるなり。」(第6巻242頁)そして、部落の窮乏状態を把握すべく、京都府勸業課が1886年(明治19)にまとめた調査報告書『明治十九年臨時 旧穢多非人調書』によれば、東七条部落の惨状を次のように述べている。1,111戸のうち「362戸は生活に差しつかえこれなし。1. 雑業者、世上一般の不景気に抛り、目下生活に困迫するもの749戸。右困迫の者今日の糊口の実況 749戸の内、400戸余はわずかに所有するところの衣類物品等を売却してようやく口を糊するものにして、又残る349戸余は、所有品もなくただに近隣の救助を受け、あるいは荘内かつ他の慈善者の助力を受け糊口するものにして、ややもすれば飢餓に陥らんとする等の状態なり。」こうした窮状は、各地の部落に見られた(第2巻40頁)。

このように、松方デフレ政策は、1800年代の部落の経済動向にとっては、もっとも大きなできごとなのであり、『京都の部落史』第2巻では12ページにわたって詳述してあるが、今までの部落史ではあまり重視されておらず、せいぜい明治の近代化が部落にもたらしたマイナスのうちの一つくらいにしか認識されていない。

『部落問題・人権事典』(解放出版社、2001年)には項目としても立っていないし、まだ明治期の部落問題が十分に研究されていなかったところに発刊された前述の『部落の歴史と解放運動』では、「明治30年代に入って、日清戦争を契機として、日本全体に軽工業を中心とする産業資本が確立する時期に入ると、一般の中小企業とおなじく、部落産業は全面的に崩壊していった。」(222頁)というふうに、近代化の中で駆逐されていく零細資本一般の運命としてかたづけられている。しかし、もし幕末から明治初期にかけての部落での製造業の発展がなければ、松方デフレによって部落産業があれほど甚大なダメージを受けることはなかっただろうし、またその後の貧困問題は症状がもっと軽かったに違いない。

以上のように、部落の貧困化自体には、差別によって受けた不利益という側面は弱い。むしろ、その後立ち直っていく過程で、社会に進出できなかったということが、部落問題としてとらえられなければならない。そして、部落がこの貧困から本格的に立ち直るのは、1960年代の高度経済成長と同和事業の開始をまたなくてはならないのである。

(なだもと まさひさ/京都部落問題研究資料センター所長)

# 人権教育における 参加型学習の意義と限界

伊藤悦子

はじめに

昨年11月9日に、当資料センター主催でシンポジウム「『京都の部落史』教材化に向けて - なぜ、何を、どう教えるのか - 」を開催したが、私の予想以上（20人も集まればいいのかと思っていました）に参加者が多く、部落史学習のあり方についての関心が高いことを実感した。シンポジウムはテーマを離れた展開になった点では反省点も多く、その反省は今後のセンターにおける催しものに活かしていきたいところである。

しかし、センターはあくまでも「歴史」それも「部落史」を研究対象にしてきたという経緯があることから、どうしても「部落問題学習のあり方」さらには「人権教育のありかた」について、センター全体として企画をすることはなかなか困難である。そういう意味で今回、シンポジウム反省会番外編として、今流行の参加型学習について個人的に思うことを記すことにしたい。

そもそも参加型学習が同和教育において試みられるようになったのは、1995年から始まった「国連人権教育の10カ年」<sup>(注1)</sup>との関連からである。国連の人権教育あるいはそのベースとなったヨーロッパあるいはアメリカの人権教育の実践を大阪大学の平沢安政氏<sup>(注2)</sup>などが紹介し始め、多文化教育、開発教育、国際理解教育の内容や方法論を同和教育にも活用していこうとしたことによる。参加型学習が実践者の間で認知されたのは、『わたし、出会い、発見 自分らしさを発見し、豊かな仲間づくりをめざす教材・実践集』（大阪府同和教育研究協議会刊、1996年）の発行が契機になっているだろう。この本は現在まで版を重ねており、続編がパート4まで出版されている<sup>(注3)</sup>。また、昨年は参加型学習を普及させるために京都府教育委員会も学習冊子『わたし、あなた、みんなの人権』を発行し、すべての小学校・中学校の教員に配布している。そうした学習冊子は滋賀県においても作られている。今や、参加型学習はブームである。

実際、私自身も大学の授業で参加型学習は取り入れ

ている。また、当センターで運営委員をしている外川正明氏との共著で「小学校における同和問題指導についての考察（2） - 部落問題解決へのスキルを育てる - 」（『京都教育大学教育実践研究年報』第14号 1998年）を著したりもした。したがって、私自身は参加型学習を決して否定する立場ではない。しかし、学校教育現場や社会教育現場で「参加型学習ありき」で実践がなされている状況を見ると、首を傾げざるを得ない状況があることも確かである。

そういう意味でこの3年ほど、「参加型学習の意義と危険性」と題した話をあちこちでしてきたので、その骨子を以下に明らかにしたい。

## 京都市の住民意識調査にみる教育課題

なぜ、今参加型学習が必要なのか。何のために、どのように、何を参加型学習で行っていったら、人権教育をよりよいものにすることができるのか。こうした問題意識に基づいて、参加型学習の必要性の根拠として私は各地の人権意識調査を検討してきた。

人権問題に関する意識調査は、各自治体で実施されており、地域的にも継続性という点でも相当の分量が集積されている。ただ、行政職員が統計手法もいまい加減に実施したものから、統計会社に全面的に依頼したものの、研究者を交えて検討会を経て作成されたものまで、調査報告書は玉石混交である。また、その意識調査実施の目的とその後の活用の仕方も、調査が調査だけで終わってしまったり、行政関係職員の間だけで読まれて終わったり、調査結果から教育啓発計画を作成したりなど、さまざまである。

今回取り上げる京都市の『人権問題に関する意識調査報告書』は2002年に（財）世界人権問題研究センターが発行したもので、2000年に調査されたものである。世界人権問題研究センターに集う研究者12人が報告書を執筆しており、行政の報告書に比べると問題意識が鮮明で興味深い報告書になっている（私自身は参加していない）。ただ、どういう事情かわからないが、クロス表が明らかに読み間違えられていたり、考察の根

抛が曖昧な叙述が見受けられるなど、熟読させてもらうと課題もある報告書であった。

しかし、当然のことながら、こうした報告書からは人権教育・啓発の課題が浮かび上がってくるわけで、今回は参加型学習の必要性という点で二つの資料をみておきたい。

まず、「被差別体験とその対応」に関する結果である。「他人から差別的な扱いを受けたことがありますか」という問に対して、31.5%が「ある」と回答しており、それへの対処として五つの選択肢から選んでもらった結果(図1)をみると、「世の中にはいろいろな人がいるのだからと受け流す」が36%で最も多く、「すぐその人と話し合う」は13%にすぎない。同じような質問を亀岡市で実施した結果も、「受け流す」がトップであった。

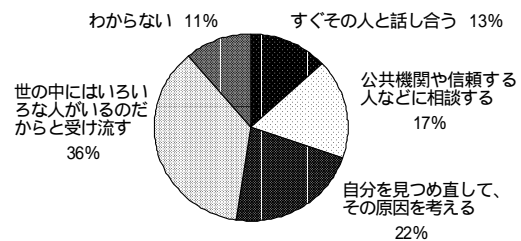
確かに「悪い噂を流された」などの被差別体験は抗議のしようもないが、性差、学歴、収入、職業、家庭環境、国籍・民族などに基づくさまざまな差別的な取り扱いが「野放し」になっている。この状況の背景には、いちいち「めくじらをたてない」方を美德とするような雰囲気があるのかもしれない。しかし、要因の一つとして、被差別体験に対する対応の仕方を我々は知らない、もっと言えば「慣れていない」ということが挙げられるだろう。抗議する事は勇気もいるし、気力も必要である。その場の雰囲気も毀すし、人間関係も失うかも知れない。だから、我慢する。何もケンカをする必要はないが、軽く指摘をすることができる程度の対処方法は身につけたい。なぜなら、人権は誰かによって守ってもらうものではなく、自らが戦い取るものだからである。住民の多くが自らの人権についての自覚をもち、侵害に対応できること、それが日常的に展開されることが、国連人権教育の10ヵ年で提唱されている「人権文化」の内実であろう。

こうした行動力のなさ、実際生活での対処能力のなさは、「解決への態度」にも表れている。図2は「あなたは人権問題の解決のためにどのようなことをしようとお考えですか」に対する回答結果である。「何をしてもよいのかわからない」が43.4%いる。この回答の背景には無力感や「面倒くさい」も入っているだろう。しかし、やる気はあるが方法がわからないと躊躇している人がいることも推測できる。

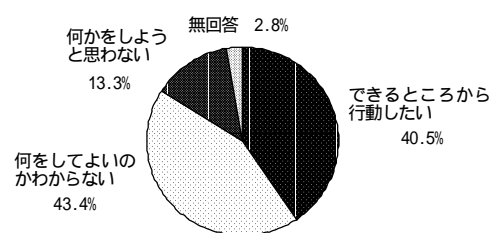
したがって、こうした「何をしてもよいのかわからない」人が「できるところから行動したい」に移るためには、それなりに方法論を学ぶ必要がある。また、「できるところから行動したい」という態度をもって

いる人が、実際の生活で行動するための能力や具体的な方法論を学ぶ必要があるだろう。

【図1】 差別的とりあつかいへの対処



【図2】 人権問題の解決のためにしたいこと



『京都市 人権問題に関する意識調査報告書』より

### 参加型学習の意義と限界

このように、人権意識調査結果から得られた課題に対応するのは、具体的で使える「知恵」であり、それは系統的学習よりはむしろ、参加型学習によって得られる事柄ではないだろうか。つまり、人権のための知識というより、「人権のための技術」である。技術はやってみて習得するものであり、実践が必要である。この一点からだけでも参加型学習は必要であろう。

参加型学習は、単にいままでの部落史学習や同和問題学習がマンネリ化し、人々に「受けない」から「受けるもの」「おもしろいもの」としてするものではない。系統的学習が積み重ねてきた成果を受けて、系統的学習ではできないことを参加型学習で補うのである。現に、海外の人権教育の翻訳を読むと、幼児や小学生段階では参加型学習が多いが、人権についての系統的学習は中学生や高校生段階で行われている。学習の目標や流れのなかで、参加型学習が位置づけられるのであって、今までの同和問題学習では受けないから参加型学習をやってみようと言うことでは、決してないのである。

ただ、実際の参加型学習の実施状況を見ると、ゲームがゲームで終わっていたり、ロールプレイ(役割演技)やシミュレーション(場面設定)が、その場限り

のもので、日常的な生活場面と結びつかないものになってしまっているものが多い。子どもたちは、参加型学習によって能動的に動き、学習しているクラス内は活気に満ちた状況を呈するが、ではその学習で何を得ることができたか、何を感じる事ができたかの「振り返り」が弱いために、「ああおもしろかった」で終わってしまっている。あるいは学習目標とアクティビティがそぐわなくて授業がうまく展開できない場合も出てくる（私はこの失敗が多い）。

参加型学習は方法論である。その際に、学習の目標、方向性、内容との吟味が必要であり、また、シミュレーションをする場合には、当然参加者の実態に合わせたものでなければならない。そうしたいくつかの当然の配慮をした参加型学習で、しかも連続的に実施し、系統的学習を組み合わせたものが実施されれば、よりよい人権教育が実施されるだろう。なによりも避けなければならないのは、参加型学習をすれば人権教育をしていると思われることである。

おわりに

現在、「総合的な学習の時間」を利用した人権学習がさまざまに試みられている。数時間をかけて、さまざまな調査活動や表現活動がなされ、子どもたちが能動的に学習している。このような参加型学習については、学力保障の問題や学習意欲の向上の問題など、もっと別の観点で論じる必要があるだろう。それらについては、今後の課題としたい。

（いとう えつこ / 京都部落問題研究資料センター運営委員）

（注1）<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/jinken/>を参照

（注2）主な著書・訳書

『アメリカの多文化教育に学ぶ』（明治図書出版刊、1994.4）

訳書『多文化教育 新しい時代の学校づくり』（ジェームズ・A・バンクス著、サイマル出版会刊、1996.3）

共訳書『読み書きの学び 成人基礎教育入門』（アナベル・ニューマン著、岩槻知也訳、部落解放研究所刊、1998.4）

訳書『入門多文化教育 新しい時代の学校づくり』（ジェームズ・A・バンクス著、明石書店刊、1999.10）

（注3）『わたし 出会い 発見 part2 ちがいに気づき、豊かにつながる参加型の人権・部落問題学習プログラム実践集』（大阪府同和教育研究協議会刊、1998）

『わたし 出会い 発見 part3 人権総合学習をはじめよう 人権総合学習プラン集』（大阪府同和教育研究協議会刊、1999）

『わたし 出会い 発見 part4 新しい学びをより豊かに 人権総合学習Q & A』（大阪府人権・同和教育研究協議会刊、2001）

## 収 集 図 書 （2002年10月～12月受入）

総記 逐次刊行物

環 歴史・環境・文明（藤原書店刊、2002.7）：2,400円  
「満州へ送られた被差別部落」（高橋幸春）所収

木野評論 第33号（京都精華大学情報館文化情報課編刊、2002.3） 特集：あなたの知りたい韓国のすべて

東北学 7 <北>の精神史（東北芸術工科大学東北文化研究センター刊、2002.10）：2,000円 特別座談・差別と穢れ「差別の底にある卑賤や穢れという観念」（横井清・辻本正教・赤坂憲雄）所収

総記 博物館

おとぎ電車が走った頃 昭和30年代の暮らしと風景（宇治市歴史資料館編刊、2002.9） 特別展図録

戦争と人々の暮らし 戦時下の吹田（吹田市立博物館編刊、2002.10） 2002年度特別陳列展示図録

造営にこめる願い 棟札にみる大工の世界（京都府立丹後郷土資料館編刊、1998.7） 特別陳列図録

地域に生きる博物館（徳島博物館研究会編、教育出版センター刊、2002.3）：2,800円 「博物館における生物の差別的和名の使用 アンケート調査から」（佐藤陽一）、「博物館における展示と部落問題 博物館がとらえる地域と歴史をめぐって」（長谷川賢二）所収

智恩寺の絵馬（京都府立丹後郷土資料館編刊、1998.10）

## 特別展図録

中山道 街道開設400年記念(板橋区立郷土資料館[ほか]編刊,2002.10) 中山道展図録  
よき日をめざして(舳松歴史資料館刊,2002) 2002秋特別展資料

## 部落問題 総記

解放新聞 縮刷版 第19巻~第34巻(解放新聞社編刊,1987.10~2002.5) 1254号~2050号 1986年1月~2001年12月

シンポジウム『京都の部落史』教材化に向けて[資料]なぜ・何を・どう教えるのか(京都部落問題研究資料センター編刊,2002.11)

第19回部落問題全国交流会[資料]人間と差別をめぐって([部落問題全国交流会事務局]刊,2002.10)

部落問題と人権のいま 考え・学習する視点(長崎県部落史研究所編刊,2002.10) 「これからの部落差別をなくすとりくみにおいて考えたい視点 多様性・複合差別・グローバル・わたし」(熊本理沙),「部落史に学ぶ 新たな見方・考え方に立った学習の視点」(外川正明),「2001年度『人権に関する県民意識調査』を読む」(藤澤秀雄)所収

忘れさられた西光万吉 現代の部落「問題」再考(吉田智弥著,明石書店刊,2002.7):1,500円

## 部落問題 生活・差別事件・聞き書き・伝記

笑顔を永遠に 池原茂光追悼集(池原茂光追悼集編集委員会編刊,2001.10)

## 部落問題 歴史

差別のまなざしと解放へのあゆみ 三重の部落解放史(中尾健次著,三重県人権問題研究所刊,2002.4):1,000円 みえ人権ブックレット1

瀬戸内領国賤民制の構造と特質(全国部落史研究交流会編刊,2002.9):1,400円 部落史研究6

日本中世被差別民の研究(脇田晴子著,岩波書店刊,2002.10):13,125円

保津町における人権の歴史(保津町同和教育推進協議会設立30周年記念事業実行委員会,亀岡市刊,2001.10):1,000円

## 部落問題 同和行政

人権文化創造をめざす啓発と三重県民の意識の現状(三重県人権問題研究所編,三重県人権センター刊,199

9.3) 1998年度人権問題に関する三重県民意識調査報告書

## 部落問題 解放運動

部落解放全国女性集会報告書 第47回 解放をめざす女性活動(部落解放同盟中央女性対策部編,部落解放同盟中央本部刊,2002.12)

[部落解放同盟京都府連合会]田中支部創立八十周年記念写真集(部落解放同盟京都府連合会田中支部刊,2002.11)

兵庫県水平運動史料集成(兵庫県部落解放研究所編,部落解放同盟兵庫県連合会刊,2002.11)

第29回奈良県部落解放研究集会[議案書](奈良県部落解放同盟支部連合会,NPOなら人権情報センター刊,2002.9)

## 部落問題 同和教育

人権教育への提案 義理・人情から人権へ(アジア・太平洋人権情報センター編刊,2001.3) 執筆者:阿久澤麻理子,米田眞澄,森実):1,260円

高瀬川を歩く 2 東九条と在日コリア人(龍谷大学同和問題研究委員会刊,2002.3) 同和問題研究資料

## 部落問題 文学

部落問題・文芸素描(住田利夫著,南斗書房刊,2002.9):1,600円

## 日本の差別問題

いのちの歴史をかえりみて尊厳回復へ(日本カトリック部落問題委員会刊,2002.11) 人権教育資料No.9

イルム(なまえ)もえるいのち だれもが本名で暮らせる社会を(民族教育ネットワーク編,みずのわ出版刊,2002.4):1,470円 民族教育シリーズ3

誇り 人間 張本勲(山本徹美著,講談社刊,1995.5):1,400円

ドメスティック・バイオレンスをなくすために 資料集(大阪市民政局著,大阪市刊,2002) 啓発ビデオシナリオ

## 日本史

宇治市歴史資料館年報 平成12年度(宇治市歴史資料館刊,2002.3)

岡山県歴史人物事典(山陽新聞社刊,1994.10):8,000円



巨椋池漁師仲間文書（宇治市歴史資料館刊，2002.3）  
収蔵文書調査報告書5

さまざまな生業 いくつもの日本4（赤坂憲雄，中村生雄，原田信男，三浦佑之編，岩波書店刊，2002.11）：2,900円 「屠畜と皮革 前近代を中心として」（寺木伸明）他所収

縄文の生活誌 日本の歴史第01巻（岡村道雄著，改訂版，講談社刊，2002.11）：1,500円

帝国の昭和 日本の歴史第23巻（有馬学著，講談社刊，2002.10）：2,200円

都市と職能民 中世都市研究8（中世都市研究会編，新人物往来社刊，2001.9）：3,600円

ふるさと保津（保津町誌編纂委員会編，保津町自治会刊，2001.11）：4,000円 付：「保津川峡谷の地名と謂れ」

村からみた日本史（田中圭一著，筑摩書房刊，2002.1）：720円

「八瀬童子会文書」補遺・総目録（京都市歴史資料館刊，[2002.11]）

#### 社会科学

講座・前近代の天皇 1 天皇権力の構造と展開 その1（永原慶二編，青木書店刊，1992.12）：3,500円

講座・前近代の天皇 3 天皇と社会諸集団（永原慶二編，青木書店刊，1993.6）：3,000円

講座・前近代の天皇 4 統治的諸機能と天皇観（永原慶二編，青木書店刊，1995.6）：3,500円

講座・前近代の天皇 5 世界史のなかの天皇（永原慶二編，青木書店刊，1995.11）：3,500円 付・天皇制研究史

日本における社会事業の形成 内務行政と連帯思想をめぐって（池本美和子著，法律文化社刊，1999.12）：6,500円

「学力低下」の実態 調査報告（苅谷剛彦，志水宏吉，清水睦美，諸田裕子著，岩波書店刊，2002.10）：480円

新しい歴史教科書 中学社会（扶桑社刊，2002.2）：714円

社会 6上 小学校社会科（光村図書出版刊，2002.2）：427円

社会 6下 小学校社会科（光村図書出版刊，2002.6）：235円

社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き（帝国書院刊，2002.1）714円

小学社会 6上（教育出版刊，2002.1）：370円

小学社会 6下（教育出版刊，2002.6）：292円

小学社会 6年上（大阪書籍刊，2002.2）：370円

小学社会 6年下（大阪書籍刊，2002.6）：292円

小学生の社会 6上 日本のあゆみ（日本文教出版刊，2002.2）：460円

小学生の社会 6下 世界の中の日本（日本文教出版刊，2002.6）：202円

新中学校 歴史 日本の歴史と世界（清水書院刊，2002.2）：714円

中学社会歴史 未来をみつめて（教育出版刊，2003.1）：714円

中学社会 歴史的分野（大阪書籍刊，2002.2）：714円

中学生の社会科・歴史 日本の歩みと世界（日本文教出版刊，2002.2）：714円

わたしたちの中学社会 歴史的分野（日本書籍刊，2002.1）：714円

京都橘女子学園100年史（京都橘女子学園百年史編集委員会編，京都橘女子学園刊，2002.10）

#### 芸術

かぶき発生史論集（郡司正勝著，岩波書店刊，2002.5）：1,000円

#### 文学

「正義」を叫ぶ者こそ疑え（宮崎学著，ダイヤモンド社刊，2002.4）：1,500円

## 収集逐次刊行物目次（2002年10月～12月受入）

～各逐次刊行物の目次の中から編集部判断でピックアップしました～

跡地発 19（大阪市よさみ人権協会刊，2002.10）

十人十色の部落問題 12 「葛藤の21世紀」を共に歩むために 塚本正治

E（い～ふらっと） 28（京都市女性協会，京都市男

女共同参画推進課，2002.11）

特集 疲れてませんか！？男性のあなた

IMADR-JC通信 121（反差別国際運動日本委員会刊，2002.11）：500円

映画の紹介 『酔っぱらった馬の時間』(バフマン・ゴバ  
ディ監督)

ウイングスきょうと 52号(京都市女性協会刊, 2002.  
10)

コミックで考えるジェンダー 『ルームメイツ』(近藤よ  
うこ著) 村上知彦

図書情報室新刊案内

『夫婦という幸福 夫婦という不幸』(沖藤典子著) /  
『乳がん あなたの答えが見つかる本 よくわかる!最  
適な乳房温存療法』(乳がん体験から医療を考える  
会「アイデアフォー」他著) / 『女性外来がよくわかる  
本』(対馬ルリ子監修) / 『仕事を持つのは悪い母親?』  
(シルヴィアンヌ・ジャンピノ著)

ウイングスきょうと 53号(京都市女性協会刊, 2002.  
12)

コミックで考えるジェンダー 『櫻の園』(吉田秋生著)  
村上知彦

図書情報室新刊案内

『自分らしさとわがままの境で 日本女性の静かな革  
命』(アンヌ・ガリグ著) / 『DV~女性たちのSOS』  
(人権文化を育てる会著) / 『張扇一筋ジェンダー講  
談 <日本初女性真打> 講談師かく語りき』(室井  
琴桜著) / 『本を読む少女たち ジョー、アン、メア  
リーの世界』(シャーリー・フォスター&ジュディ・シ  
モンズ著)

大阪の部落史通信 30(大阪の部落史委員会刊, 2002.9)  
史料紹介 「河州亀井村弥兵衛行実」について 非人番の  
身分解放 藤原有和

米騒動と部落 3 里上龍平

岡山部落解放研究所報 235号(岡山部落解放研究所刊,  
2002.9): 100円

「無紋藍染・渋染」再考 好並隆司

岡山部落解放研究所報 236号(岡山部落解放研究所刊,  
2002.10): 100円

岡山における近世被差別部落をめぐって

「津山藩被差別部落と人口問題」中野美智子 / 「津山  
藩被差別民と斃牛馬処理」頭士倫典

岡山部落解放研究所報 237号(岡山部落解放研究所刊,  
2002.11): 100円

座談会 「人権教育」をどう創造していくのか~同和教育  
の新たな展開を~

解放教育 419(解放教育研究所編, 2002.11): 700円  
特集 メディア・リテラシーを育てる その着眼点と方法

高校から総合学習を創る6 からだ、こころ、いのち 幸  
せなたくさんの知らせ 平野智之

追悼・中村拓三先生

解放教育 420(解放教育研究所編, 2002.12): 700円  
特集 いま、「学力問題」を読み解く 実態調査と学力保  
障の方途

学力低下の実態と克服の道すじ 2001年東大グループ  
調査からの報告 志水宏吉 / 学力実態調査の残したもの  
中野陸夫 / 解放教育の三つのモデル 池田寛

高校から総合学習を創る 7 "ピア"で行こう! 総合学  
習時代の人権学習 平野智之

追悼・中村拓三先生をおくる2

図書紹介 『部落の歴史 前近代』(寺木伸明著) 松永唯  
道

解放教育 421(解放教育研究所編, 2003.1): 700円  
特集 ジェンダーの視点がなぜ必要か

虐待・暴力とジェンダー 子育て支援の現場から 村本  
邦子 / 子どもの遊びとジェンダー テレビメディアの  
影響から 土田陽子 / 男性にとってのジェンダーフリー  
運動音痴の男の子の視点から 大東貢生 / スクールセ  
クハラと男女共生教育 カウンセリングの現場から感  
じること 本多利子 / セクシュアリティの多様性 性的  
マイノリティの立場から 高取昌二 / アンペイド・ワー  
クとジェンダー 「市民」教育の必要性 亀山俊朗 / 高  
校生の「就職難」と均等待遇 勝部尚子 / 複合差別の観  
点から 玉井真理子

追悼・中村拓三先生をおくる 3

上田孝子 / 国分真一 / 田村賢一

高校から総合学習を創る 8 企画はDESIGN! コンペスタ  
イルの発表大会1 平野智之

月刊解放の道 225号(全国部落解放運動連合会刊, 200  
2.10): 350円

法後における各地の動向

変貌する同和教育研究会 国の「人権戦略」にのみ込ま  
れようとする組織の行き着く先はどこか 山脇正孝

月刊解放の道 226号(全国部落解放運動連合会刊, 200  
2.11): 350円

特集 第5回全国住民運動交流集会

月刊解放の道 227号(全国部落解放運動連合会刊, 200  
2.12): 350円

第31回人権と部落問題全国研究集会 シンポジウム「差別  
的表現と表現の自由」

解放へのはばたき 70(日本基督教団部落解放センター

運営委員会刊, 2002.11)

特集 教会もこんなことができる 教会の部落解放運動を求めて

かわとはきもの 121 (東京都立皮革技術センター台東支所刊, 2002.9)

靴の歴史散歩 66 稲川實

足の機能に障害がある人の靴 6 大野貞枝

皮革関連統計資料

関西大学人権問題研究室紀要 第45号 (関西大学人権問題研究室刊, 2002.7)

教科書の中の性差別 日弁連グループの批判以後変わったか 田中欣和

地域社会における就学前障害児の発達保障とその対策 大島吉晴

「同和(解放)教育」運動の総括試論 住田一郎

[紀州藩牢番頭家文書] 編纂会だより 1 (紀州藩牢番頭家文書編纂会刊, 2002.11)

牢番頭仲間と岡島「かわた村」について 藤本清二郎

季節よめぐれ 178号 (京都解放教育研究会刊, 2002.11)

日本社会に生きる「在日」の子どもたち、その思いと親の願い 李美葉

季節よめぐれ 179号 (京都解放教育研究会刊, 2002.12)

魅力あふれる人権教育を求めて 森実

季節よめぐれ 180号 (京都解放教育研究会刊, 2003.1)

在日外国人教育の現状と課題 ともに生きるために 金井英樹

教化研究 127 (真宗大谷派教学研究刊, 2002.6) : 1,200円

差別問題に人間(自己)を学ぶ 1 <けがれ>と差別の問題 生實修

京都市政史編さん通信 12号 (京都市市政史編さん委員会刊, 2002.12)

京都における建物強制疎開について 入山洋子

キリスト教社会問題研究 51号 (同志社大学人文科学研究刊, 2002.12) : 1,000円

「からゆき」と婦人矯風会1 九州の一地域女性史の視覚から 倉橋克人

『婦人新報』と母性保護論争 矯風会の婦人界における位置づけを検討する指標として 今井小の実

もう一人の婦人運動家 ガントレット恒子(1920年代における) 松倉真理子

日本基督教婦人矯風会 青年婦人部の活動 同志社女学校の事例を中心に 坂本清音

「大仏前」考 小林丈弘

神戸女学院の音楽教育 アメリカン・ボード日本ミッション音楽教育史 4 安田寛

『婦人新報』の皇室関連記事 田中真人

グローブ 31 (世界人権問題研究センター刊, 2002.10)

朝鮮通信使7 朝鮮通信使に出会った少年・少女 仲尾宏

女性たちの全国水平社 3 メッセージ<荊冠旗下の団結> 1923年・全国婦人水平社設立 福田雅子

藝能史研究 158 (藝能史研究会刊, 2002.7) : 1,600円

書評 『山・鉾・屋台の祭り 風流の開花』 (植木行直著)

鬼頭秀明

研究所通信 292号 (部落解放・人権研究所刊, 2002.12) : 100円

第8回部落史研究交流会報告2 動物と関わった人々 (報告: 松井章)

国立女性教育会館研究紀要 6号 (国立女性教育会館刊, 2002.9)

テーマ: 男女共同参画社会と学びの創造

男女共同参画社会の形成に向けた学び 村松泰子 / 学び

の共同体の系譜 フェミニズムとのクロスロード 佐藤

学 / すべての人に教育を、ユネスコのジェンダー平等

教育への取り組み 菅野琴 / スウェーデンに学ぶ生涯学

習社会 神野直彦

書評

『フェミニズムと科学/技術』 (小川眞里子著) 加藤

万里子 / 『ドメスティック・バイオレンス 愛が暴力に

変わるとき』 (森田ゆり著) 戒能民江 / 『女性問題を

学ぶ ある自治体のこころみから』 (下村美恵子著),

『ジェンダーフリーを共同で学ぶ 実践につなぐ講座

の記録』 (学びを行動にうつす女たちの会著) 榎村久

子 / 『與謝野晶子評論著作集1~22巻』 (内山秀夫・香

内信子編) 田川建三

こべる 116 (こべる刊行会刊, 2002.11) : 300円

永井荷風と部落問題 3 『断腸亭日乗』原稿訂正をめぐって 野町均

書評にこたえて 吉田智弥「米田さんのこころ」 師岡佑行

中国電力による個人情報連絡事件 阪本清

アバンギャルド・フェミニズム 吉田智弥

こべる 117 (こべる刊行会刊, 2002.12) : 300円

特別措置法終結後の課題 住田一郎

切り取られたページ Hくんの死を悼む 平野広朗

こべる 118 (こべる刊行会刊, 2003.1) : 300円

- 部落差別の解消は可能か 山本尚友  
夫婦別姓論と家名の継承 鎌田明彦  
編集人への手紙 気になること  
雑学 26号(下之庄歴史研究会刊, 2002.11): 800円  
「部落問題との出会い」特集  
自由闊達に生きた人々 ときには異能者として 上野茂  
上熊野地の坤…… 新宮部落史年表作成に関わって5 研究課題と問題点 守安敏司  
狭山差別裁判 345号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2002.9): 300円  
BOOK 『日本の刑務所』(菊田幸一著)  
狭山差別裁判 346号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2002.10): 300円  
BOOK 『司法の崩壊 やくざに人権はないのか』(目森一喜, 斎藤三雄編)  
狭山差別裁判 348号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2002.12): 300円  
特集 寺尾判決28ヵ年糾弾!  
BOOK 『裁判官はなぜ誤るのか』(秋山賢三著)  
月刊滋賀の部落 340号 特別号(滋賀県同和問題研究所刊, 2002.10): 600円  
人権尊重型社会を考える(上) 碓井敏正  
消えゆく芸能民の村 藤田恒春  
月刊滋賀の部落 341号(滋賀県同和問題研究所刊, 2002.10): 400円  
人権に関する県民意識調査は何を示したのか(上) 川辺勉  
書評 『人権教育の実践を問う』(八木英二・梅田修編) 中野功  
月刊滋賀の部落 342号(滋賀県同和問題研究所刊, 2002.11): 400円  
人権に関する県民意識調査は何を示したのか(下) 川辺勉  
書評 『学校五日制と学力・生活・集団』(河瀬哲也著) 植田一夫  
平成大合併と同和問題 栗原省  
月刊滋賀の部落 343号(滋賀県同和問題研究所刊, 2002.12): 400円  
小室藩領における藤内 藤田恒春  
人権と部落問題 694(部落問題研究所刊, 2002.9): 1,155円  
特集 脅かされる生活と人権  
人権と部落問題 695(部落問題研究所刊, 2002.10): 630円  
特集 今も続く「同和教育」  
本棚 『人権保障の憲法論』(小林武著) 小松浩  
文芸の散歩道 西鶴作品に著された近世賤民たち 『西鶴名残の友』より 小原亨  
「映画」でみる子どもの権利 7 「少年の町」「ともしび」「チャップリンのニューヨークの王様」 丹波正史  
川端分館の頃 私の自伝的な回想 7 三人の同和教育実践者 東上高志  
人権と部落問題 696(部落問題研究所刊, 2002.11): 630円  
特集 真の人権回復・人間回復を  
本棚  
『学校五日制と学力・生活・集団』(河瀬哲也著) 三上満ノ  
『せこへい 平和をつくる子どもたち』(世界の子どもたちの平和像を広島につくる会編) 橋本左内  
文芸の散歩道 ラフカディオ・ハーンの訪問した部落を尋ねて THREE POPULAR BALLADS(「俗唄三つ」または、「三つの俗謡」) 秦重雄  
「映画」でみる子どもの権利 8 「スウィング・キッズ」「制服の処女」「100人の子供たちが列車を待っている」「証人の椅子」 丹波正史  
人権と部落問題 697(部落問題研究所刊, 2002.12): 630円  
特集 平和をつくる子どもたち  
人権教育読本「にんげん」を斬る! 亀谷義富  
本棚  
『Today's Buraku Problem』(杉之原寿一著) 松本公忠ノ  
『人権教育の実践を問う』(八木英二・梅田修編) 柏木功  
文芸の散歩道 「村の浮浪者」(住井すゑ作) 農民文学に描かれた「賤民像」 桑原律  
「映画」でみる子どもの権利 9 「ウエルカム・トゥ・サラエボ」「マザー・テレサ 母なることの由来」「小児病棟」「依頼人」 丹波正史  
川端分館の頃 私の自伝的な回想 9 私の教室 東上高志  
人権21 調査と研究 160(岡山部落問題研究所刊, 2002.10): 650円  
資料から見た新見地方の農村生活 2 水産業 竹本豊重  
言語をめぐる差別と人権 1 角谷英則  
人権21 調査と研究 161(岡山部落問題研究所刊, 2002.12): 650円

- 人権問題の現状と人権確立をめざす課題 石岡克美  
 人権の現在を考える 1 教育権の現在 碓井敏正  
 『新しい公民教科書』（扶桑社）批判 下 「公」と「私」  
 小畑隆資  
 明治の人権論・ノート 1 オランダ留学と『万国公法』  
 「人権」の誕生1 尾川昌法  
 資料から見た新見地方の農村生活 3 交通 竹本豊重  
 史料は語る 8 倉敷村の牢番 8 大森久雄  
 月刊人権問題 310（兵庫人権問題研究所刊，2002.10）：  
 350円  
 同和特別法後の行政・教育の現状と課題 杉之原寿一  
 月刊人権問題 311（兵庫人権問題研究所刊，2002.11）：  
 350円  
 近代の社会的差別 61 友愛会の歴史的意義と社会事業 15  
 布川弘  
 月刊人権問題 312（兵庫人権問題研究所刊，2002.12）：  
 350円  
 熱い思いを （社）「ふくしま文庫」いま・むかし 中西  
 はるゑ  
 信州農村開発史研究所報 81号（信州農村開発史研究  
 所刊，2002.7）  
 長野県水平社本部会館建設計画（続） 斎藤洋一  
 信州農村開発史研究所報 82号（信州農村開発史研究  
 所刊，2002.10）  
 疾風の如く駆け続けた中村先生 川向秀武  
 追悼・中村拓三先生 走って・惚れて・走って 辻玄子  
 月刊スティグマ 85（千葉県人権啓発センター刊，2002.  
 12）：500円  
 特集 夏季講座「人権・同和教育」  
 全朝教通信 京都版 43号（全国在日朝鮮人教育研究協  
 議会京都刊，2002.10）：250円  
 総合的な学習の時間でのとりくみ チャンゴを通してさ  
 まざまな立場の人の思いから学ぶ 安藤るりこ・土岐文  
 行  
 はじめの第一歩 シジャギ パニダ（始めることは半分だ）  
 康玲子  
 Mとのかかわりから生まれたこと 若松栄一  
 同和教育 487（全国同和教育研究協議会編，2002.10）：  
 150円  
 人権のまちをゆく 13 報道関係者と歩く長野の被差別部  
 落 「報道関係者同和問題研修会」の取り組み  
 人権文化を拓く 67 子どもが被害者になった時～スケー  
 ル・セクシュアル・ハラメント～ 亀井明子  
 同和教育 488（全国同和教育研究協議会編，2002.11.）：  
 150円  
 人権文化を拓く 68 「国籍」は「触れてはならない」！？  
 金光敏  
 同和教育 489（全国同和教育研究協議会編，2002.12）：  
 150円  
 人権文化を拓く 69 極めて私的な回顧と展望 朝治武  
 どの子ども伸びる 319（部落問題研究所刊，2002.11）：  
 630円  
 「人権教育」批判 「疑似体験学習」とその問題点（1）  
 谷口幸男  
 どの子ども伸びる 320（部落問題研究所刊，2002.12）：  
 630円  
 「人権教育」批判 「疑似体験学習」とその問題点（2）  
 谷口幸男  
 ねっとわーく京都 166号（ねっとわーく京都刊行委員  
 会刊，2002.11）：500円  
 同和行政レポート 「無審査」で返済肩代わり 過去5年で  
 7億2千万円 この先28年間続く同和奨学金 寺園敦史  
 はらっぱ 223（子ども情報研究センター刊，2002.10）：  
 700円  
 特集 こわくないよ、小児糖尿病  
 私の本棚  
 『リトル ターン』（ブルック・ニューマン作） / 『ロ  
 ビンソン・クルーソーを探して』（高橋大輔著）  
 はらっぱ 224（子ども情報研究センター刊，2002.11）：  
 700円  
 特集 「同和」保育と人権保育  
 私の本棚  
 『はじまりの記憶』（柳田邦男，伊勢英子著） / 『お  
 んぶにだっこ』（北川悦吏子著）  
 はらっぱ 225（子ども情報研究センター刊，2002.12）：  
 700円  
 特集 地域をつなぐファミリー・サポート・センター  
 私の本棚  
 『女トロールと8人の子どもたち』（ヘルガドッティル作）  
 / 『学校を基地にお父さんのまちづくり』（岸裕司著）  
 ヒューマンライツ 175（部落解放・人権研究所刊，2002.  
 10）：525円  
 木島平村がゆく 人権の村づくり 奥田均  
 連載走りながら考える 19 法からではなく現実から出発  
 を 部落の概念を曖昧にしてはならない 北口未広  
 現代史の目 14 千里ニュータウンと農民闘争 小山仁示

アメリカの年齢差別禁止法の最前線 大塚英恵

玲子さんの映画批評 「ブレッド&ローズ」(ケン・ローチ監督) 川西玲子

最近読んだ本

『平和学をはじめ』(池尾靖志編)/『生きかた上手』(日野原重明著)/『日本の刑務所』(菊田幸一著)/『マンガ 子ども虐待出口あり』(イラ姫、信田さよ子著)

ヒューマンライツ 176(部落解放・人権研究所刊, 2002.11): 525円

武者小路公秀回想記 6 武者小路公秀

現代史の目 15 市町村合併の歴史 小山仁示

資源化されるヒト胚 福本英子

玲子さんの映画批評 「メルシィ! 人生」(フランシス・ヴェベール監督) 川西玲子

書評 『東アジアの男女平等教育』(アジア・太平洋人権情報センター編) 米田眞澄

最近読んだ本

『会社人間が会社をつぶす ワーク・ライフ・バランスの提案』(パク・ジョアン・スックチャ著)/『やってみよう! 総合学習~学びのPlan・Do・See~』(高校総合プロジェクトおおさか編)/『ぶちナショナリズム症候群~若者たちのニッポン主義』(香山リカ著)/『18人の若者たちが語る部落のアイデンティティ』(松下一世著)

ヒューマンライツ 177(部落解放・人権研究所刊, 2002.12): 525円

企業経営と企業倫理~企業と社会の関係を考える~ 出見世信之

「えせ同和行為」の現状と取り組み~奈良県の事例から~ 出口康夫

連載 走りながら考える21 行政よりも司法重視の時代に 行政的事前規制から司法的事後規制の時代に 北口末広

現代史の目16 南京占領と祝勝ムード 小山仁示

名古屋刑務所事件の真相究明と再発防止のために 国内人権機関と国際的な監視体制への加盟を 末廣哲

「真の亀裂」とは何か 「在日」の子どもたちへの迫害 佐藤信行

急がれる共生社会への行政ビジョン 「人権教育・啓発基本計画」に寄せて 金光敏

玲子さんの映画批評 「OUT」(平山秀幸監督) 川西玲子

書評 『部落の歴史 前近代』(寺木伸明著) 廣岡浄進

最近読んだ本

『パレスチナ/イスラエルの女たちは語る オリーブがつくる平和へのオルタナティブ』(刊行委員会編)/『ボランティア-経済と企業 日本企業の再生はなるか?』(根本博編著)/『知っていますか? ドメスティック・バイオレンス一問一答 第2版』(日本DV防止・情報センター編著)/『きらめき』(のぞみ法人設立作業部会体験談冊子企画委員会編)

ひょうご部落解放 106(兵庫部落解放研究所刊, 2002.9): 700円

特集 特措法から一般施策へ

転換期の同和行政と「人権のまちづくり」運動 谷元昭信/上の島高齢者食事サービス福寿会 橋本貴美男/龍野市立構教育集会所での人権教育交流活動 前川修/資料 同和行政・一般対策活用事業

統一と団結のための部落解放史研究 『城間哲雄部落解放史論集』を読み直す 朝治武

技を磨いて「かわた」に成った ともいきみかず

映画評 『橋のない川』『橋のない川 第二部』 竹森健二郎

連載(下) いのちの初夜 北条民雄

部落解放 509号(解放出版社刊, 2002.11): 630円

特集 野宿者の人権と自立支援

アメリカ・レポート 21世紀の人権運動22 アメリカによる「拉致」、奴隷制と強制連行 柏木宏

「人権」で読み解く江戸川柳 4 三下り半に見る悲喜劇 2 田結荘哲治

映像フリースペース 「たそがれ清兵衛」(山田洋次監督) 白井佳夫

やっぱり今この本を 30 『北の国から 2002遺言』(倉本聰作) 今江祥智

本の紹介

『心に乗とられて ある精神障害者の手記』(森実恵著)/『地域に生きる博物館』(徳島博物館研究会編) 世界屠畜考 1 韓国篇上 カラクトンで解体処理を見学 内澤句子

韓国「人権委員会」の活動に学ぶ 設立1周年を迎えて キムドンファン

ルポルタージュ部落4 戦後の生活と解放運動 福岡県糸島の被差別部落を歩く(上) 鎌田慧

解放出版社発行 『Hunet』創刊号掲載記事の人権上の問題に関するおわびと反省

部落解放 510号(解放出版社刊, 2002.12): 630円

## 特集 これからの部落解放運動

「人権」で読み解く江戸川柳 5 持参金と「家」優先の論理 田結荘哲治

映像フリースペース 「刑務所の中」(崔洋一監督) 白井佳夫

やっぱり今この本を 31 『十二歳』(椰月美智子著) 山下明生

## 本の紹介

『部落の歴史 前近代』(寺木伸明著) / 『戸籍って何だ 差別をつくりだすもの』(佐藤文明著) / 『100人の村 争わないコミュニケーション』(中野裕弓著) / 『生命倫理とは何か』(市野川容孝編)

放置された部落 兵庫県・西山部落の現況 杉垣環

中村拓三さんを偲ぶ 土方鐵

太鼓のまちに太鼓の響きを 太鼓集団「怒」15年の軌跡 浅居明彦

世界屠畜考 2 韓国篇中 マジャンドンで働くということ 内澤旬子

『部落解放』総目次(495号~510号)

部落解放 511号(解放出版社刊, 2003.1): 630円

水平線 お互いを見つめなおす契機となるよう 金時鐘

## 特集 ジェンダーと人権

男女共同参画とバックラッシュ ジェンダーの視点でみる女性の人権のいま 船橋邦子 / 男性の視点でつくられた「被害者像」「労働者像」ジェンダーから法律を考える 乗井弥生 / 『男』性を問い直す 大東貢生 / 部落解放運動とジェンダー 熊本理抄 / ジェンダー・フリーへの模索 奈良県・菟田野町での「GEMBの会」の活動 出口文代

メディアのミレニアム 「石に泳ぐ魚」判決で何が争われたのか 石井政之

「人権」で読み解く江戸川柳 6 身売りと年貢と人参 田結荘哲治

映像フリースペース 「マイノリティ・レポート」(スティーブン・スピルバーグ監督) 白井佳夫

やっぱり今この本を 32 『トーク・トーク カニグズバーグ講演集』(清水真砂子訳) 今江祥智

本の紹介 『にんげんの街へ 浅香』(部落解放浅香地区総合計画実行委員会刊) 木村雅一

韓国国家人権委員会法の成立とその活動について チョン・カンジャ

『教育不平等』その後 ふたたび問う 外川正明

世界屠畜考 3 韓国篇下 差別はあるのかないのか 内澤旬

## 子

人間的連帯築くことを生涯のテーマに 酒仙・辛基秀さんを悼む 上野敏彦

司法制度改革と刑事手続きの民主化 裁判員制度と証拠開示のルール化をめぐる 庭山英雄

歴史教科書が変わった 小・中学校教科書の部落史記述の変化と「つくる会」 上杉聰

部落解放運動情報 67号( [部落解放運動・情報] 編集委員会刊, 2002.9 ): 300円

こんな本がでています 『家族へのまなざし 市民的共生の経済学3』(慶應義塾大学経済学部編)

部落解放運動情報 68号( [部落解放運動・情報] 編集委員会刊, 2002.11 ): 300円

こんな本がでています

『北朝鮮難民』(石丸次郎著) / 『イマジ・ノート』(楨村さとる著)

部落解放研究 148号(部落解放・人権研究所刊, 2002.10): 1,000円

## 特集 グローバル化時代の企業の社会的責任

グローバル化時代の企業の社会的責任を考える 谷本寛治 / 社会的責任投資の動向と日本企業 岸本幸子 / 男女がともに働きやすい職場づくりとは ベネッセコーポレーションの就労支援 北川美千代

2001年東大グループ学力調査からみえてきたもの 志水宏吉

舩松村の堺市編入反対運動(上) 北崎豊二

国外の人権問題と市民・企業・地方自治政府 マサチューセッツ・ビルマ制裁法を素材として 菅原絵美

文化公演「『音楽』いのちを支えるもの その創造性と可能性」を振り返って 第16回人権啓発研究集会・第2回和歌山・人権啓発研究集会 豊田千晶

書評 『成人教育ハンドブック 生きた学びを創る 人権時代をひらく地域成人教育』(上杉孝實監修 / 部落解放・人権研究所編) 相庭和彦

部落解放研究 広島部落解放研究所紀要 9号(広島部落解放研究所刊, 2002.9)

今日の思想状況と研究所の課題 小森龍邦

イスラエル・パレスチナ問題によせて 非対称な力関係での「土地」と「人」を巡る攻防 奥山真知

今、問われる人権教育 三次市吉岡広小路市長の大いなる錯覚 森島吉美

軍港の発展とともに形成された近代初頭からの被差別部落の歴史 小早川銀宗

同和地区児童・生徒の学力の連続と断絶 小五から中三への追跡調査から 村澤昌崇

対談：煩惱と差別 小武正教，信楽峻磨，小森龍邦

広島の日一世の聞き取りから 安錦珠

部落解放研究くまもと 44号（熊本県部落解放研究会刊，2002.10）

特集 いまあらためて、「共に学び共に生きる」を問う

障害者が「がんばれる」社会をめざして 生瀬克己／生まれてきてくれて本当にありがとう 共に生きる教育を求めて 堀正嗣／『しょうがいを持って生きるということ』 宮部修一／地域で生きたい 倉田哲也／永訣の朝に 共に学び、共に生きる権利を求めて 桑本謙／しょうがい者の労働と共働・共生の道 花田昌宣

れきし・くらし・ひと 14 部落史古文書研究会

部落解放史ふくおか 107（福岡部落史研究会刊，2002.9）：1,050円

特集 多文化共生と人権

憲法における人権の歴史と多文化共生時代の展開 人権擁護法案の課題にもふれて 近藤敦／福岡市における学校の「多文化化」について 吉谷武志／差別と人権 横田耕一 柳井美枝インタビュー

中国朝鮮族の民族教育の現状 金山

中国における視覚障害者教育支援活動八年の歩み 青木陽子

郷隼人の短歌・素描 大沢敏郎

近世民衆史の泉 44 古文書学習会

部落解放史ふくおか 108（福岡部落史研究会刊，2002.12）：1,050円

特集 識字運動の現在

部落解放運動と識字運動 田川の識字運動の取り組みから 堀内忠／「生きることはたかひや！」 識字運動に教師・社会教育関係者はどう取り組んだのか 森山沾一／35周年を迎えた「あすなる解放学級」 西尾紀臣／筑紫地区における識字運動 美咲支部と京町支部の取り組みから 部落解放同盟筑紫地区協議会／私たちの「よみかき教室・城野」 川村公子／「生存に欠くことのできない」学習権の保障を 自主夜間中学「よみかき教室」共同学習者として 徳成晃隆／学ぶことの初心 大沢敏郎

特別展『教科書の中に見る同和問題』を終えて 光枝房敏 「ホームステイセンター・柿の木」のこれまで、そしてこれから 「らい予防法」被害者の社会生活の回復（社会復帰）を進めるホームステイセンター・柿の木

書評 『部落の歴史 前近代』（寺木伸明著） 松永唯道 部落解放ひろしま 61号（部落解放同盟広島県連合会刊，2002.11）：1,000円

特集 子どもの未来とヒロシマの教育

ルポルタージュ 被差別部落を歩く 世代を超えたつながりを求めて 神村2区を訪ねて

宗教と部落問題 水平社結成時における宗教界への三つの提起 松根鷹

部落問題研究 162（部落問題研究所刊，2002.10）：1,111円

中世犬神人の存在形態 三枝暁子

安政年間村方入纏一件よりみた南王子村 西尾泰広

子どもの「自己決定権」について 牧野広義

人権教育政策の展開と「人権教育」「人権教育・啓発に関する基本計画」にふれて 梅田修

穢れ観念と部落差別（下） その不可分性と穢れ観念の位置 峯岸賢太郎

本願寺史料研究所報 27号（本願寺史料研究所刊，2002.11）

天正3年の雑賀年寄衆関係史料 武内善信

水と村の歴史 信州農村開発史研究所紀要 17号（信州農村開発史研究所刊，2002.3）

あした元気になあれ 松村智広

部落問題のパラダイム転換 部落とは何か、部落民とは何か 野口道彦

「賤民制廃止令」と長野県の被差別部落 斎藤洋一

矢嶋村名主の役目日記 寛延三年・天明七年～寛政五年 佐藤敬子

追悼

太田美明さん／奈良本辰也さん／高野昭之助さん

みちくさ 19（大阪大学部落解放研究会刊，2002.9）

書評

『A マスコミが報道しなかったオウムの素顔』（森達也著）・『A2』（森達也・安岡卓治著）・『職業欄はエスパー』（森達也著）／『合成洗剤の話』（日本消費者連盟編）

民権協二ニュース 141（在日韓国民主人権協議会刊，2002.8.31）：300円

書籍紹介 『ノーム・チョムスキー』（鶴見俊輔監修）

民権協二ニュース 142（在日韓国民主人権協議会刊，2002.9）：300円

特集 「愛国心」を強める教育と在日コリアン

書籍紹介 『国家に病む人々 精神病理学者が見た北朝鮮、



バルト、ガリシアほか』(野田正彰著)  
 民権協ニュース 143(在日韓国民主人権協議会刊, 2002.10): 300円  
 特集「南北코리아と日本のともだち展」開催～南北朝鮮・日本・在日の架け橋をめざして～  
 書籍紹介『嘘つきアーニャの真っ赤な真実』(米原万里著)  
 Rights ライツ 41(鳥取市人権情報センター刊, 2002.10)  
 今月のいちおし! 『100万回生きたねこ』(佐野洋子絵・文) 清水祐加  
 Rights ライツ 42(鳥取市人権情報センター刊, 2002.11)

今月のいちおし! 『「人権の宝島」冒険 2000年部落問題調査・10の発見』(奥田均著) 椋田昇一  
 Rights ライツ 43(鳥取市人権情報センター刊, 2002.12)  
 今月のいちおし! 『18人の若者たちが語る部落のアイデンティティ』(松下一世著) 坂根政代  
 ルシファー 5(水平社博物館刊, 2002.10): 500円  
 公開講座報告  
 木村吉輔の機織伝習場と柏原の自主的部落改善運動 舟津菊男/1920年代の地域社会と水平社運動 燕会から水平社の創立へ 井岡康時  
 資料紹介 西浦忠内さんの新資料紹介 第1回男子普通選挙支持感謝状, 奈良県連再建記念手拭

## 新聞書評欄等 (2002年10月～12月受入)

～各新聞から書評・映画評・VIDEO評等をピックアップしました～

解放新聞 2089号(解放新聞社刊, 2002.10.7): 120円  
 映画「アフガン戦場の旅」(吉岡逸夫監督)  
 今週の1冊 『「大東亜」戦争を知っていますか』(倉沢愛子著)  
 筆者に聞く 『教育不平等』を書いた外川正明さん  
 解放新聞 2090号(解放新聞社刊, 2002.10.14): 80円  
 今週の1冊 『ナチ・ドイツと言語 ヒトラー演説から民衆の悪夢まで』(宮田光雄著)  
 解放新聞 2091号(解放新聞社刊, 2002.10.21): 80円  
 今週の1冊 『盲導犬クイールの一生』(石黒謙吾文・秋元良平写真)  
 解放新聞 2092号(解放新聞社刊, 2002.10.28): 80円  
 今週の1冊 『狭山裁判の超論理 表が出たら私の勝ち 裏が出たらあなたの負け』(半沢英一著)  
 山口公博が読む今月の本  
 『道元』(立松和平著)/『福翁自伝』(福沢諭吉著)/『自伝 土と炎の迷路』(加藤唐九郎著)  
 解放新聞 2093号(解放新聞社刊, 2002.11.4): 120円  
 映画「アテルイ」(アニメ「アテルイ」映画製作委員会製作)  
 今週の1冊 『ハンセン病療養所 百年の居場所』(太田順一著)  
 筆者に聞く 『教育不平等』を書いた外川正明さん 2  
 解放新聞 2094号(解放新聞社刊, 2002.11.11): 80円  
 映画「チョムスキー 9・11」(ジャン・ユンカーマン監督)

解放新聞 2095号(解放新聞社刊, 2002.11.18): 80円  
 今週の1冊 『部落のアイデンティティ 18人の若者たちが語る』(松下一世著)  
 解放新聞 2096号(解放新聞社刊, 2002.11.25): 80円  
 山口公博が読む今月の本  
 『からだを読む』(養老孟司著)/『老人読書日記』(新藤兼人著)/『ジョゼ・ボヴェ あるフランス農民の反逆』(聞き手 ポール・アリエス&クリスチアン・テラス)  
 解放新聞 2097号(解放新聞社刊, 2002.12.2): 120円  
 筆者に聞く 『教育不平等』を書いた外川正明さん 3  
 解放新聞 2098号(解放新聞社刊, 2002.12.9): 80円  
 今週の1冊 『私を番号で呼ばないで「国民総番号」管理はイヤだ』(やぶれっ!住民基本台帳ネットワーク市民行動編)  
 解放新聞 2099号(解放新聞社刊, 2002.12.16): 80円  
 ムラじまん支部じまん「ふれあい会食」東京荒川  
 今週の1冊 『<私>はなぜカウンセリングを受けたのか』(東ちづる著)  
 解放新聞 2100号(解放新聞社刊, 2002.12.23): 80円  
 今週の1冊 『ナショナリズムの克服』(姜尚中・森楽博著)  
 山口公博が読む今月の本  
 『自殺って言えなかった。』(自死遺児編集委員会・あしなが育英会編)/『漢字百話』(白川静著)/『危ない携帯電話[それでもあなたは使うの? ]』(荻野

晃也著)

解放新聞 2101号(解放新聞社刊, 2003.1.6): 160円

対談 姜尚中・組坂繁之

本の紹介

『原発列島に行く』(鎌田慧著) 勝又進 / 『裁判官はなぜ誤るのか』(秋山賢三著) 指宿信 / 『アフガニスタンの仏像は破壊されたのではない恥辱のあまり崩れ落ちたのだ』(マフマルバフ著) 津和慶子 / 『はにかみの国 石牟礼道子全詩集』(石牟礼道子著) 松本めぐみ / 『戦前戦後障害者運動史年表』(杉本章著) 吉田智弥

ムラじまん支部じまん

長野県豊田支部・大豆島支部 / 長崎県長崎支部 / 鳥取県中河原支部・馬場支部

解放新聞 425号(岡山解放新聞社刊, 2002.11)

講演要旨 部落文明 ケガレの再生・浄め役(1) 川元祥一

解放新聞京都市版 134号(部落解放同盟京都市協議会刊, 2002.12.1): 100円

部落の公営住宅を考える3 平井斉己

京都市内の被差別部落の過去・現在・未来 歴史編その3

「少しの野小屋」から「北小路西院村」へ 山内政夫

解放新聞東京版 557号(解放新聞社東京支局刊, 2002.

10): 90円

東京の部落の歴史 8 『浅草新町と江戸の被差別民衆』2

近世江戸建設の中で生まれた町 浅草新町 浦本誉至史

解放新聞東京版 558号(解放新聞社東京支局刊, 2002.10.15): 90円

東京の部落の歴史 9 『浅草新町と江戸の被差別民衆』3

弾左衛門支配の中核となった町 浅草新町 浦本誉至史

解放新聞東京版 559号(解放新聞社東京支局刊, 2002.11.1): 90円

東京の部落の歴史 10 『浅草新町と江戸の被差別民衆』4

様々な製品を産んだ新町の長吏たち 浦本誉至史

解放新聞東京版 560号(解放新聞社東京支局刊, 2002.11.15): 90円

東京の部落の歴史 11 『浅草新町と江戸の被差別民衆』5

江戸民衆に支持された、猿飼たちの芸 浦本誉至史

解放新聞 東京版 561号(解放新聞社東京支局刊, 2002.12.1): 90円

東京の部落の歴史 12 『浅草新町と江戸の被差別民衆』6

江戸の都市機能を支えた非人たち 浦本誉至史

解放新聞東京版 562号(解放新聞社東京支局刊, 2002.12): 90円

東京の部落の歴史 13 『浅草新町と江戸の被差別民衆』7

非人頭車善七と浅草非人小屋・溜 浦本誉至史

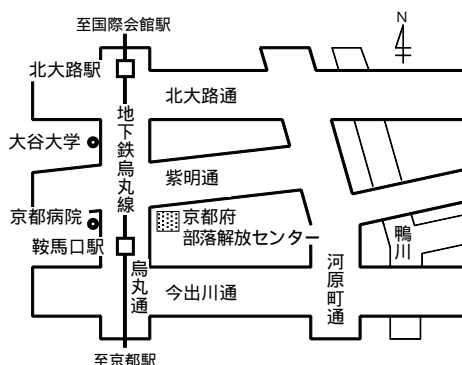
事務局より

昨年は「部落史連続講座 『京都の部落史』教材化のために (全4回)」及び「シンポジウム『京都の部落史』教材化に向けて なぜ・何を・どう教えるのか」と新たな事業が続き、所長・運営委員の皆さん総出で何とか乗り切ることができました。内容的には伊藤さんも書いておられるように反省点も多いのですが、参加して下さった方々のご期待にそえるよう今年の事業に生かしていきたいと思っています。今後の事業についてご要望等ありましたら是非お知らせください。また、ホームページ、メールマガジンも更に充実させていく予定です。乞ご期待!

尚、今号の発行が大変遅れましたことをお詫びいたします。

Memento 11

発行日 2003年1月25日 / 編集・発行 京都部落問題研究資料センター



所在地 〒603-8151

京都市北区小山下総町5-1  
京都府部落解放センター 3階

TEL/FAX 075-415-1032

URL <http://www.asahi-net.or.jp/qm8m-ndmt/>

開室日時 月曜日～金曜日 第2・4土曜日 10時～17時  
(祝日・年末年始は休みます)

交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅(京都駅より約10分)下車 北へ徒歩2分